

いよいよ新しい年となりました。
皆さま、明けましておめでとうございます。
今年是一段と寒い日が続きますが、皆様お元気でしょうか。



さて、今月号は「带状疱疹」の痛みについてお話しします。



「带状疱疹」という名前を聞いたことがある方が多いと思いますし、実際に罹られたことのある方も多いかと思えます。带状疱疹は強い痛みを伴う水疱が身体に帯状に出現することが特徴です。一般的には、痛みから始まり、突然の痛みに驚き、病院でいろいろ検査しますが、原因がよくわからないと言われ、鎮痛薬などを処方されますが、あまり効果はありません。非常に強い痛みに不安を抱えているうちに、気が付くと身体のどこかに水疱が現れていて、あわてて皮膚科を受診すると、「带状疱疹ですね」と言われます。痛みがなく、いきなり水疱が現れるときもあります。

水疱の出る場所は全身のどの部分でも出ます。頭の先から足の先まで、陰部にでるときもあります。

水疱は非常に重症な場合から軽症な場合まで程度は様々です。どの病気にも重症、軽症があるのと同じです。带状疱疹と診断されたら、真っ先に「抗ウイルス剤」を飲む必要があります。ウイルスを殺す抗生剤です。これを飲まないで、ウイルスがどんどん増殖してしまい、より重症になります。まず、進行を止めることが大切です。皮膚の水疱はやがて枯れてきて1か月もすると治ったようにきれいになってきます。やれやれ、と思うのはまだ早いです。問題は痛みです。

带状疱疹は皮膚科の病気のように思われますが、実は神経の病気です。子供のころ、水疱瘡になりましたよね。あの時のヘルペスウイルスが神経の奥のほうに潜んでいて、免疫力が低下した時に見計らって発病するのです。発病すると、ウイルスが神経に沿って増殖していくうちに、皮膚にまで菌があふれてきて水疱になります。そこで「带状疱疹だった」ことがわかるわけです。中には、水疱がでないまま終わるケースもあります。

带状疱疹の痛みは難治性です。普通、怪我をすると皮膚が治ってくるのと平行して痛みもおさまっていきます。带状疱疹もそのうち痛みが治まるだろうとがまんして待っている方はたくさんおられますが、待っても治らないケースが多いのが带状疱疹です。私たち、痛みの専門医は、3か月経過すると痛みは治らず、その後一生お付き合いすることになる難治性の痛みと考えています。「带状疱疹後神経痛」という名前になります。「带状疱疹後神経痛」にならないためには、発症して少しでも早い時期に神経ブロック治療を受けることです。

次回は、その治療法についてご説明しますね。